

魚谷 ユーロに行ったときに、あるサッカー関係のコンサルタントの人と話したのですが、彼はロッテルダムでの決勝戦のために、二年前からロッテルダム市に雇われて準備してきたらしいんです。彼は、世界のスポーツイベントでいくと、一番がワールドカップ、二番がオリンピック、三番がユーロだと。これは今回ユーロをやったから、次に一段階飛んで、一番目のワールドカップを経験することができたからキャリアにかなり箔がつくという趣旨の話をしてました。ああそういうイメージなのか、と思つた訳です。

また、ワールドカップは、オリンピックに比べてサポーターとしての観客の参加の度合いが強い。顔に色を塗ったり着飾ったりして、もう一段身近じゃないかなという感じがしました。それと国と国との闘いという色彩が強く国を挙げて盛り上がる。フランスも優勝したら百万人以上の人が出てパレードをしたわけですが、他に余りないだろうと思うんです。

まだ、実感がわかない市民も多い

司会 嶋田さんは、市民の立場でワールドカップをどのように受けとめていらっしゃるのでしょうか。

嶋田 私はスポーツ音痴でございまして、ワールドカップというのは、全く報道を通してしか実感が無いという人間でございまして。じゃあ周りを見ていて、私が非常に例外的かというところ、まだまだ横浜の中では、私と同じような方が多いんじゃないか。ところが実際にもうワールドカップが来る、そして市民の側がまだそれについていけなくて、報道され

ているものとの間に非常にギャップがある段階です。ワールドカップをどういうふうにお迎えするのか、競技関係者や観客の方たちをどれだけ温かく迎えられるか、に私は興味があつて、こちらのほうの市民的な盛り上がりというの、これから考えていかななくてはならないと思つております。ワールドカップそのものにかかわっていく方と、それをサポートする方、いろいろな層が周りにあるのではないか、なだらかに皆さん方に浸透するようにしていけたらいいのではないかしらと思つています。

2 コンベンション都市戦略としてのワールドカップサッカー

まずは、横浜の名前を知ってもらう、来てもらう

司会 横浜市は創造的コンベンション都市戦略としてワールドカップサッカーに取り組んでいくということですが、その辺につきまして、魚谷さんのほうからお話しさせていただきますか。

魚谷 今、このワールドカップに関連して、各ホテルの方々と色々な話をしてあります。その中で返ってくる答えの一つとして、例えば横浜の名前は、海外にはあまり売れていませんよ、ワールドカップは世界に横浜の名前を売り込む絶好の機会だとはつきりおっしゃるわけですね。我々には、横浜は結構世界で売れているんじゃないかという意識があるんですけれども。一方、市民の中にも、横浜は十分知られているのだから何でこれ以上世界の

人々に名前を売ることをおっしゃる方もいらっしゃるんですが。

こういったスポーツコンベンションとしては、世界的に注目をされるものを呼ぶことによつて、横浜の名前を世界の隅々まで知ってもらいたい。そして場合によって世界各地から横浜に来てもらいたい。来てもらった方には、もう一回来てほしい。場合によっては、横浜で会社でも起こしてみようかとか、企業進出してみようか、そういう気持ちを持つ人や企業を増やしたい。それが街の活性化というものに結びつくのではないかとというのが一つあるんです。

さらに、ワールドカップという晴れの場で、横浜という舞台が大きく変わる可能性があるわけですね。この街がいままで経験したことが無い、変わった情景を身近に見れるということと、そこにいる市民にとつても一つの意外性が出てくる。ワールドカップを機に新たな出会いや自分の一生の思い出になるようなことが起きるかもしれない。そういった経験の積み重ねが、その都市に住む市民にとつてみるといい財産につながる。ワールドカップはそういう機会を増やすことができるチャンスなのかなと感じています。

太田 JAWOC(注2)の速藤事務総長さんの話ですが、今まで何回かFIFA(注3)本部の会議に参加してひしひしと感じたことの一つに、ヨーロッパではサッカーの強い国は、いろいろな意味でステータスが高い国だと思いがちであり、弱い国は、文化・芸術、そのほか政治・経済まで、レベルの低い国だというぐらいのイメージを持っている。韓国

■太田 昇氏

JAWOC横浜支部長・横浜市スポーツ振興事業団理事長
昭和三十六年、東京教育大学体育学部卒業後、横浜市立南高校教諭等を経て、昭和五十年より教育委員会指導主事。昭和六十年教育委員会学校教育情報処理教育センター所長、平成三年市立港商業高校校長、六年横浜商業高校校長、平成八年四月から平成十二年三月まで教育長就任。平成十二年四月から現職。



(注2) JAWOC = Japan Organizing Committee for the 2002 FIFA World Cup Korea/Japan (財)二〇〇二年ワールドカップサッカー大会日本組織委員会

(注3) FIFA = Federation Internationale de Football Association
国際サッカー連盟、一九〇四年創設。現在FIFAの加盟協会は二百三の国と地域に及んでいる。

ですらワールドカップに過去五回出場しても予選を一度も突破していない。ましてや日本は初めて前回のフランス大会に出た。そういう点から見ると、いわゆるヨーロッパのサッカー好き人間から見ると、日本のサッカーの実力についてはまだまだほとんど理解されていない、と同時に、どんな国だかわからないぐらいのレベルで見ている人もたくさんいるのではないかと思います。

そういうことからすると、このたび横浜で決勝戦をはじめ、四試合が開催されることは世界中から多くの人に来てもらえるし、何となくとも報道関係者もたくさん集まることになりそうです。サッカーを超えたコンベンション都市としてのPRと同時に、世界の人たちに日本の状況を含めて横浜の状況を知ってもらえる非常にいいチャンスになるのではないのかと思います。都市セールズを含めて大々的な意味がある。世界に開いていくいきっかけになる大会だ。そして先ほど言われた、市民の方がただ試合を見るだけではなく、多くの外国人を受け入れようという、そういう人たちにしっかり横浜を知ってもらおうという、余り肩ひじ張らない受け止め方が、市民の中に広がっていただければ非常にありがたいな、と思っっています。

新幹線の駅から歩いていける競技場

司会 西田さん、横浜は国内の開催十都市の中で、決勝戦を開催する都市ということなんですが、その点についてはいかがでしょうか。西田 それはやはり、横浜が置かれた日本の中でのロケーション、東京の隣ですし……。

横浜の立地条件というものの、競技場を新横浜の駅に近いところにつくったという、市民もそれを許したということは、自治体の持っていた見識だと思えます。非常に仲のいいライバルと一緒に話しているときに、悔しかったら新幹線を引つ張ってこいと言ったんですが、私はそういった点では誇りに思っています。

世界には横浜という名前はかなり知られていませんよ。ただワールドカップで知られるくらいまではいってませんが、決勝戦が九十分で終わったとしても、世界から来た百何カ国のアナウンサーは、どんなそそっかしいアナウンサーでも、横浜というのは一回か二回は言いますね。それを考えたらいいんです。

名前が知られるというリスクも

しかし名前が知れるというのは、必ずしもフェイマス、有名という意味じゃなくて、ノトーリアスという汚名というものも表裏一体にあるわけです。舞台がちゃんとできていなかったら、もし、決勝戦で大事なキックをしたときに、競技場の芝がぱかっとはがれたら、横浜は一世紀恥をかくわけです。タレントの名前を売っているのではないんだから、そこを売ったものではないといけない。我々が取材に行っているのもそうでしたが、いざというときには放送センターの周りの映像を撮って、そこを送り出してしまうわけですから、横浜のその辺が日本になってしまいうわけです。横浜のその辺の街並みが日本の街になるわけです。競技とか競技場だけというのではなくて、街全体が世界の舞台になるとい

ある面ではさらされる。

世界ではスポーツイコール文化

それからサッカーのことに關しては、サッカーが好きなのと、したことがあるのとはヨーロッパでの受け入れが全然違うんです。サッカーの選手というのは頭がよくないと動けないんです。スポーツを文化と認めている世界では、スポーツの強い国は文化が高い国というのはイコールになるんです。ワールドカップをきっかけに日本人に国際的なものをつかんでほしい。日本の試合だけを見たいのではなくて、国際試合を見て世界を見てもらいたいと思うんです。

3 大会運営の課題

まずは、安全対策

司会 西田さんから、ワールドカップサッカーのファイナルというのは、名譽だけれどもリスクもあるというお話があったんですが、大会を成功させるためにどういう課題があって、どう乗り越えようとしているのか、魚谷さんいかがでしょうか。

魚谷 まずは、大会が安全に、スムーズに実施されるということが必要最小限のことです。展開される試合自体もいい試合であってほしいと思いますが、例えば観客がいわゆる騒乱を起こしたりしたとき、どう安全に試合をやっていくのかということですね。

そのためには、例えばホームとアウェイのサポーターを一緒にさせないとか、それぞれ競技場のノウハウがあつて、その積み重ね



■魚谷 憲治氏
横浜市企画局コンベンション都市推進室長
平成九年五月オリンピックパラリンピック
招致担当部長
平成九年九月企画局担当部長
平成九年十二月コンベンション都市推進担
当部長
平成十一年四月理事(コンベンション都市
推進室長)

でサッカーを安全にやっていると、思っています。そういうノウハウの積み重ねを学び、それを補助するいろいろな装置を考えていかなければいけない。

フリーガン対策

フリーガン ワールドカップではよく警備上の問題が言われますが、今後の課題としてはどんなことがあるのでしょうか。

魚谷 フリーガンに対する経験は、日本はないと言っているんじゃないでしょうか。特に横浜国際総合競技場は、フリーガンに対する経験というのはほとんどない。まず、どういうチームが横浜で闘うのかということによっても、かなり影響が出てくると思います。この前のベルギーであったように、例えばイングランドとドイツがもし横浜で闘うとなると、これは相当緊張しないとけない。ただ、ヨーロッパと違って陸続きじゃないので、入るときにある程度チェックできるというのがありますね。

フリーガンに対しても、ベルギーは規制一方だったんです。オランダはどちらかというとサポーターに対してコミュニケーションを徹底的によくしていった。試合のときには、オランダはフリーガン対策としてファン大使館というのをつくり、そこに、その国のサポーターに対して情報提供をしたり、対戦国のミュージションを呼んでサポーターに音楽を聴かせたりして気分をよくさせるとか。単に規制するだけではなくて、取り込んでしまうというのをやっています。

西田 フリーガンは、必ずしも来るものでは

ないんです。テレビカメラが十台あればつくられるわけです。今度の話も、テレビカメラが並んでいるところで起きてしまったわけで、メディアがその集団にずっと酒を飲ませていたという説も出てきているわけです。これはやっぱりマスコミの姿勢の問題になってくるんです。あまりやりすぎると、報道規制になつてしまいます。そういう面でも難しさがあると思います。

二年後に日本の国状というものが安定しているということが大事です。スポーツが平和につながるというけれども、平和という言葉はありきたりに思えますが、精神的にみんなが落ち着いているホスト国であるかどうか。これはもちろん政治の安定と経済が影響します。フリーガンに対しては国の治安が問われています。警察治安ではなくてね。

人の移動などの問題

司会 人の移動であるとか、マスメディアの対策についてはいかがですか。

魚谷 横浜の場合には、駅から競技場へ歩いて行かれる。ただワールドカップのときには、車の利用、特に団体バスの利用とか、乗用車の利用というのはかなりの数になるんです。場合によっては二万とか三万というオーダーの人たちが、車で来る可能性がある。できるだけ公共交通にシフトさせる。ただ、バスの駐車場をどう確保するかというのが輸送関係では一つあります。

それから競技時間によっては、ラッシュ時間帯におつかる可能性があるわけです、例えば平日の夜に行われるとか。そういったときに

どういふふうな対策をとるんだというのが、輸送対策の一つです。周辺の道路整備をきっちりやり、必要な駐車場を確保して、ある程度分散させて、パーク・アンド・ライドみたいなもので対応していく。

マスメディアの方には施設整備や移動対策、情報提供のサポートを考えていかなければなりません。

まちの総合力が問われる

さらに、競技場の中に入れない人たちもいっぱい来るわけですから、そういう人たちに横浜に来てよかったという思いをしてもらうことも大切です。それから、たくさん報道の方がいらつしゃいますから、横浜のいい面をどう報道してもらおうか。我々もどこかに旅行したときの都市のイメージというのは、街に立ったときの景色だけではなくて、例えばそこで親切にされたとか、おいしいものを食べたとか、そういう積み重ねが一つのイメージをつくると思うんです。そこに住んでいる市民との日常のちよつとした触れ合い……。街の総合的なおもてなしの心、横浜という街の総合力がある意味では問われているわけです。多分、ボランティアの方も含めてマンパワーが相当必要になってくるんで、そのときには、嶋田さんのグループに大いに協力していただかなくてはいけないと思っています。

4 市民のホスピタリティとは

競技は四日、前後が大事

嶋田 今お話を伺わせていただいて、市民が

表-1 ワールドカップサッカー大会・過去の大会データ

開催年	開催国	出場エン トリー数	本大会 出場数	開催 都市数	使用競 技場数	試合数	優勝国	準優勝国
1930	ウルグアイ	13	13	1	3	18	ウルグアイ	アルゼンチン
1934	イタリア	32	16	8	8	17	チェコスロバキア	チェコスロバキア
1938	フランス	37	15	9	10	18	イタリア	ハンガリー
1950	ブラジル	34	13	6	7	22	ウルグアイ	ブラジル
1954	スイス	45	16	6	6	26	西ドイツ	ハンガリー
1958	スウェーデン	55	16	12	12	35	ブラジル	スウェーデン
1962	チリ	56	16	4	4	32	ブラジル	チェコスロバキア
1966	イングランド	74	16	7	8	32	イングランド	西ドイツ
1970	メキシコ	75	16	5	5	32	ブラジル	イタリア
1974	西ドイツ	99	16	9	9	38	西ドイツ	オランダ
1978	アルゼンチン	107	16	5	6	38	アルゼンチン	オランダ
1982	スペイン	109	24	14	17	52	イタリア	西ドイツ
1986	メキシコ	121	24	12	12	52	アルゼンチン	西ドイツ
1990	イタリア	116	24	12	12	52	西ドイツ	アルゼンチン
1994	アメリカ	147	24	9	9	52	イタリア	イタリア
1998	フランス	174	32	10	10	64	フランス	ブラジル
2002	日本/韓国	198	32	20	20	64	?	?

全体でお迎える心をつくる、そのところが、実はいらした方に一番喜んでいただけるのではないかなと思っっているんです。

例えば競技がない日、その前後の時間が、実は市民としての活動が一番発揮できる時間帯ではないかと思えます。やはりいらした方は、そこに何日間か滞在するにしても、試合の前というのはやっぱり余裕がある、あるいは試合の後にも、この横浜を訪ねていただくという、そこら辺の準備をこれからもっと整えていかないと。つまり競技場を中心とした一つの盛り上がり、周辺の盛り上がり、これを、両方一緒にそろえて考えていきたいなと思っんです。

西田 嶋田さんに言っていた中ですごく大きいのは、競技場というのは四日しか使わない、ということ。横浜市には、決勝戦の翌々日までは人がいますから、一カ月以上のうち二十六日間は横浜市民が人を受け入れ、四日間は競技場が受け入れる、こういう発想を持たないと。世界から来た人は、横浜から札幌、九州へ移動する人でも、決勝戦があるとなれば、切符があるにかかわらず寄っていく可能性はある。彼らは恐らく新幹線のフリーパスを利用すると思っんです。試合を見る方は横浜を中心に入ります。思っんです。そういう面では、市民の笑顔というか、ホスピタリティというものがすごく影響すると思っんです。

競技場のみでなく横浜全体の仕掛けが大事

嶋田 実は、新幹線の駅に近い競技場です。で競技が終わった方々が、横浜の中心地の方

に流れてこない可能性も多い。これを何とか引っ張ってこないといけない。私は今回のワールドカップの招致は、経済的、文化的、いろいろな面で非常に横浜にとってチャンスだと思っんです。競技場中心の世界ではなくて、もっと横浜市全体に動いていただくような仕掛けを何かしなくてはいけないという気がします。

それからもう一つ、このあたりをご案内している側から私が考えるのは、いらっしゃる方は他国の方だけではないと、日本の中よその都市の方もたくさんいらっしゃる。これをやっぱり意識しないと。日本人だから……というような、つまり外国の方だけに親切な日本人というのではいけないだと思っんです。

太田 どこに泊っているかというのが大分影響しますね。自分が泊っているホテルの周辺は結構歩くんです。東京のホテルに泊って新幹線ではと来て新幹線に戻ってしまう可能性もありますけれども。少なくとも決勝戦を含めて四試合に世界じゅうから来る、あるいは日本国内から来る人たちが、この関内地区のホテルとか、みなとみらい地区のホテルへ泊ってくれば、試合の合間の日にこの辺をずっと歩いてくれるという可能性は高いと思っんです。

新横浜を中心に横浜の地図を書きかえる

嶋田 それでお願いがあります。最近、地下鉄沿線の地図をつくるので、小机から北新横浜までずーっと歩いたんですが、実はそのあたりの地図がないのです。新横浜を一望した

地図は早くつくっておかないとみんなの意識に定着しないだろうと思っんです。地域の方がふつと聞かれたときに出てくるのが、付け焼き刃の一枚ものの地図じゃなくて、二年かかって周囲に定着させて積んでいく。競技場中心のエリアマップというんでしようか、情報誌のようなものが欲しいなと思ったんです。

西田 ワールドカップというのは、横浜の地図を書きかえていくと思っんです。要するに競技を見に来た七万人を、横浜市の中心のほうへも来られるようにしろという考え方が今までの横浜の考え方ですが、ワールドカップに関しては新横浜中心になるわけです。時間から考えると、競技を見るだけで精一杯ですから。ということは、ワールドカップを中心に、どれだけ新横浜に向かって横浜市全体が集中するかということだと思っんです。横浜

では、新横浜は新開地だと思っっている人が多いわけですが、それを切り替えていく必要がある。それと同時に、メディアも決まっているわけですから、そのメディアに横浜から呼びかけて、それこそ、彼らが日本へ来る前に地図は持つてくるぐらいの活動が、JAWOC支部の活動でできると思っんです。

嶋田 今までの横浜の地図というのは、すべてが関内中心にかかれた地図なんです。先ほどお願いしたのは、それを競技場を中心とした目線で見えた地図をつくり、そういう情報を集めていかないとだめなのです。そうすると、例えばこの関内が全然違う目で見られ、あるいは山手が違う目で見られて、新しい情報が出てくる。

西田 競技場中心に地図をつくらうと考えた

嶋田 昌子氏

横浜シテイガイド協会会長
横浜好きのメンバーが集まって、横浜に通でない人たちのために街の歴史や文化を伝えるボランティア活動を続けているのが横浜シテイガイド協会である。一九九二年八月に発足。現在メンバーは、七十六人(男性三十七人、女性三十九人)、年齢は三十歳から七十五歳。中区役所の生涯教育の一講座として養成講座がスタート。四ヶ月の養成講座と一年間の研修講座を実施。単なる座学のみではないマップ作成ワークショップを経て学習を自らのものとする。ガイド実績は、一九九九年で、四千七百五十六人、内二〇パーセントが外国人である。日本人も外国人もホスピタリティとしては同じ。一九九八年に開催された第三十四回全国身体障害者スポーツ大会では二千人をガイドした。

嶋田氏は、発足当初からの代表である。



人は、今まで一人もいないです。これは非常にいいヒントになりましたね。

暇ネタ、まちネタの提供が大事

三ツ谷 長期にわたる大会、オリンピックもそうですけれども、暇ネタ、まちネタというのは結構重要なんですよ。そのときにプレスセンターに、例えば中華街でこんなことをやっていますとか、頻繁にニュースを流すと、ちよつとぶらぶらしている記者が行つてみようかなと、そういうところで知っていたら、魚谷 横浜というのは最先端の産業があるんです。京浜臨海部には、いわゆるゲノムを分析している理化学研究所や新横浜駅のすぐ近くには人工衛星をつくっているNECあり、資生堂の研究所もあります。世界のトップクラスの企業は、いわゆる企業の観光ツアーのようなものをやつて、見ていただくとか。

試合の後は余韻を楽しむ場がほしい

三ツ谷 地図の中に、ぜひ入れていただきたいのが食べ物屋さん。この間、サッカーの日本とポリビア戦がありました、七万人ほとんどいっぱいでした。あれを見た帰りに連れものもどこかで食事をして帰ろうかと思つても全部いっぱいなんです。ラーメン博物館もいっぱい、プリンスホテルはちよつと離れているので、もしかしたらすいているかなと思つたら、これもまた満員なんです。外国人向けに、ここではキャッシュカードが使えとか、値段のランクとか。そういう情報があるとなすくありがたいですね。スポーツと食というのは、非常に密接な関係があるんで

す。

先ほどとにかくスムーズに帰っていただくという視点でお話しされたかと思うんですけども、一ファンとしては、例えばサッカーの試合はどうだったかおしゃべりしたいわけです。でも場所がない。七万人の人がおしゃべりしながら、余韻を楽しむ場が欲しいわけ

西田 ナイトゲームのときは別ですけれども

も、昼間の試合が終わった後、綱島に出すバスをつくつていますが、でも考えようによつては、関内へバスを出していいわけです。

三ツ谷 中華街に出してください。

魚谷 今、場長からいろいろ宿題をいただいています、一つはサッカー広場というのを考えなくてはいけないんです。今、横浜の競技場の外に広い駐車場があり、かなり広くとれるんです。もう一つは入り口のところです。この前、イベント広場で世界の料理をやりました。結構好評だったんですね。出店たとか。グズズみたいなものを売り出すテントを並べ

三ツ谷 アメリカ大会のときははたしか、決勝

の前に会場のローズボールスタジアムにそういう場をつくつてました。その横に、それぞれサッカーテーマパークみたいなものがあつたりしましたね。

西田 やつぱりそれも、ホスピタリティの

一つですよ。スポンサーシートをつくる以外に。

三ツ谷 今のJリーグの試合で私が残念に思

っているのは、試合が終わった後に、みんながぱーっと散つてしまうことです。私は、そ

んなにサッカーが詳しいわけでもないということ、外から見たサッカーについて意見を言ってくれということ、理事になったんです。相変わらずサッカーについては、試合とか戦術について全然詳しくならないんです。その理由は、試合が終わって、感想をみんなで言おうと思つてもいなくなつてしまふから

西田 サポーターもみんなサッカーの話

すれば、彼らのレベルも上がるわけですよ。三ツ谷 ホテルに帰つて、ホテルの従業員に普通の観光客と同じようにお疲れさまと言われても全然おもしろくない。きょうのサッカーはどうですかと聞かれたらいいわけですよ。待つてました、いや実はこれこれこうで、残念だったとか、こういうコミュニケーションが欲しいわけですよ。

太田 興奮や感動を分かち合える人がいると

いうのは大切なですよ。一番は人との触れ合い

嶋田 旅をしていて、一番心に残るのは、人

との触れ合い。例えばそこへ行つてお疲れさまの一言があつたとか、そういうことが一番残つていて、例えば奈良の仏様は忘れちゃつたけれども、そこで遭つたおばあちゃんは覚えていた。よく新聞記者の方たちがお書きになる囲み記事や何かでも、一番その人が心を打たれているなと思うのは、人との出会いのところだなと思うんです。

広報の重要性

西田 そういうものをどうやって伝えるか。



西田 善夫氏

横浜国際総合競技場場長
昭和三十三年、NHK入局。スポーツ放送一筋に歩み、甲子園の実況やスポーツ情報番組のキャスターとしても知られた。五輪はアナウンサーとして十回の実況と二回のキャスターを務めた。退職後は、NHK解説委員、国立鹿屋体育大学、立教大学、聖学院大学で「スポーツメディア論」などを開講している。著書に「オリンピックと放送」「西田善夫のハーフタイム」「スポーツが面白くなる見方」など。

マスクミは、横浜の人はにこにこことみんなを迎えていますとは伝えませんから。横浜の人が、来た観光客をけ飛ばしたぞというのが事件のスタートですから。やっぱり広報誌というのものはすごい責任があると思います。

魚谷 宮崎の観光都市としての発展と衰退をみていても感心するのは、タクシーの運転手さんと話をすると、もしよかつたら案内しましょうかとか、自分の町はこんないいところなんだよ、それをあなたたちに教えてあげたいんだと。そういう意欲で話すんです。嶋田 お国自慢なんですよ。市民の人たちすべてが横浜自慢ができるような気持ちがあれば良いと思います。今、横浜のタクシーの運転手さんも他都市からもすごい勢いで流入してきていてそういう方たちにもやつぱり、横浜自慢をして欲しい。

魚谷 オランダに行くところリストメニューというのがあって、値段が書いてあって、ツアーリストメニューをくださいと頼めば出てくるわけです。今度のユーロでは、オランダの場合は、国鉄も含めて公共交通機関を全部ただにしたんです。その試合の日だけ、チケットを見せるとただにしてくれるわけです。乗るほうからすると、いちいち案内をしてもらう必要もないわけですから、トラブルの防止にもなるわけです。ああいうおもてなしの仕方もあるのかなと感じました。

5-1 日韓共催の課題

司会 日韓共催の課題、あるいはこれをきっかけにして、どう考えるのかという点はいか

がでしょうか。

在日韓国・朝鮮人の子供たちと日韓共催

太田 今回JAWOC本部の人たちが盛んに言っているのは、一つは二十一世紀最初のワールドカップサッカー大会ということと、アジアで初めてということ。もう一つは二国間共催ということ。この三つが初めてであるということ。この日韓共催がそういった意味で新しい日韓の関係を築いたり、文化の交流あるいは人の交流でいい関係ができてくるんじゃないけれども、そのような中で、一世を含め日本で生まれ育った在日韓国朝鮮人の存在を忘れてはならないと思います。たくさん在日韓国朝鮮人の子供たちがいますので、そういった子供たちが、日韓共催にほんとうに誇りと自信を持てるような素地を横浜がしっかりとつけないと、日韓で一緒にやったという意味が薄らぐのではないかと気がしています。

私自身も神奈川県を高校生のときに見て、スポーツの世界に入っていったという人間なもので、大きな大会を観て子供心に感動するというのが、自分の将来を左右するぐらいの大きな衝撃を与える、と自分自身が思っています。そんなことで在日韓国朝鮮人の子供たちと共に、ぜひ多くの子供たちにもこういったところがあるんです。

嶋田 韓国の歴史を私たち、いわゆる成人がしっかり学んでいるのでしょうか。いわゆる近代史、現代史が欠けている世代ですよ。また、企業や行政は人権研修をしますが、一般市民への人権研修ももっと、教育委員会

が生涯学習の中でやるべきではないかしらと思っています。

司会 日韓交流の具体的な動きとしてはどんなことがあるのでしょうか。

魚谷 国レベルですと三浦朱門さんが日本側の会長ですが、日韓で日韓文化交流懇談会をつくり、二〇〇二年を交流の年に位置づけ、例えば韓国が歴史的な文物を日本で展示しようとか、色々な交流計画を検討しています。

例えばたまたま今年には県と京畿道が交流十周年でミュージカルをやったり、九月三日には本市が日韓ガラコンサートというのをやります。日韓交流の一環として文化交流も取り組んでいます。また、ジュニアサッカーの日韓交流も活発に行っています。

三ツ谷 フランスのワールドカップのときに日韓の合同応援チームというものができました。大会が終わった後もみんな去りがたくなって、また二〇〇二年のためにその合同サポーターというグループができています。なかなかいい動きじゃないかと思えます。日本の試合に韓国のサポーターが応援に会場に来てくれたりして、また逆もあるそうですね。いろいろな工夫でいい動きというのは出てくるものだなというふうにつくづく思っています。

魚谷 二〇〇二年のワールドカップに向かって、今はもうかなり一緒に同じ目標をたててやっているんじゃないでしょうか。意思決定に少し時間がかかるなどはありますが、スムーズにいつているんじゃないでしょうか。三ツ谷 そうですね。政治ができなかったことをスポーツというのはわりと簡単に垣根を

越えてしまふ。

6-1 ポストワールドカップに向けて

スポーツ文化の定着へ向けて

司会 このワールドカップをきっかけにして次のステップでどういうものを目指していくのか、お話をいただければと思うんですが。

西田 視野として持っていないわけではないのは、国際総合競技場がワールドカップの決勝戦会場となったというすばらしい我々の名誉は即、単なるサッカー場に終わってしまう心配があるんです。今は、陸上競技と兼用だということ誇りに思っているんです。それをどうやって生かすかということが一つあります。これから先、二十一世紀の日本には団体競技ではなく陸上とか水泳とか個人スポーツの時代が来る、と思っっています。今度のオリンピックもボールゲームで出場種目は三つだけです。それに対して備えられる、競技場としての夢もっています。

サッカー人口の定着

司会 三ツ谷さん、サッカーというのはどういふふうに着着を見せるんでしょうか。

三ツ谷 この間スクラップブックをみていましたら、ワールドカップの開催一年後のフランスのサッカー人口は六%のアップ、十四歳以下は一二%アップだそうです。これは大変結構なことですが、サッカーだけでなく、子供たちも高齢者もこれから健康増進や楽しむ

ためにスポーツは大変重要なわけです。その頂点が世界最大のお祭り・ワールドカップですから、スポーツっていいものだと思ってもらえた人が増え、今度は見るんじゃなくて、競技場の周りをちよつとウォーキングしてみるとか、生活の中にスポーツを取り入れるということができるよう施設を使いやすくするとか、そういうきっかけになればいいんじゃないかなと思います。

世界との接し方を学ぶ

太田 日本の学校でよくあることですが、たった一人の外国人の子供がクラスに入つて来て、一番困っているのはその本人のほうなのに、実際には日本の先生と子供が困っているのです。その結果、早く日本語を理解させることに腐心し、その外国人の子供の国の言葉をクラスで教わりながら、交流を図ることがなかなかできないようです。今回の大会をきっかけに世界に開かれた感覚、接し方にも新たな視点が生まれてくることを期待します。

また、競技場などを中心に施設ができていくわけですから、単にサッカーだけじゃなくてスポーツをしようという機運がこれをもとに盛り上がって欲しい。横浜へ毎年ドイツスポーツ少年団が来るんですけども、その子供たちが入っているクラブは総合スポーツクラブで、一年間を通して春はトレッキング、ハイキング、夏はボートやキャンプ、冬はサッカーをやるわけです。そういうクラブから

専門性の高いものに少しずつ変わり、自分の好きなものを選んでいくという。このワールドカップサッカーをきっかけに青少年のスポーツ振興にも大きく役立つのではないかと期待しています。

ワールドカップを二十一世紀の財産へ

魚谷 横浜は国際文化都市と言われるわけですが、その財産というのは、進取の気性だとか、新しいものの好きとか、受容性が高いという市民の気質にあるのではないかと。今度アジアで最初のしかも日韓共催で、二十一世紀最初のワールドカップとなる。多分横浜の市民がこれまで経験したことのないようなたくさんの方を迎えるでしょうし、国内からも迎える。自分と違う人たちをどう受容するか、その部分がある意味では試される。それがうまくいけば、二十一世紀の財産に残るのではないかと。

多分横浜に住んでいる人たちにとってみると、二〇〇二年のワールドカップの決勝戦をやった都市に住んでいるんだよということが、海外に行つたときに自慢になる。我がまちの自慢になれるような大会で終われば、あの意味ではそれが市民の力になって横浜にとっては一つの飛躍のステップになれるんじゃないかなと思ひ、ぜひ、そういうふうなものにしていきたいなと思います。

司会 今日は、お忙しい中、どうもありがとうございます。ごうございました。

△司会 企画局部長調査課長細谷延▽